

## 四国において強化すべきと考える事項

国土交通省  
四国地方整備局長

### 東日本大震災の教訓から・・・

#### 1. 信頼性の高い道路ネットワークの確保

- ①四国8の字ネットワーク、②高知道の信頼性向上、③瀬戸内側から太平洋側へのアクセスの信頼性の向上(R32、33、195、194、197、381、これらを補完するR193、439、440、441等)

#### 2. 津波被災想定エリア内の構造物の信頼性向上

- ①重要施設の配置の見直し、②河川・海岸堤防、橋梁、港湾・空港施設、建築物等構造物のあり方の見直し(液状化対策、落橋防止、超過外力対策など)

#### 3. 確実な避難を達成するためのソフト・ハード・ベストミックスの総合対策の推進

- ①安全な避難場所・避難路の確保、②事前情報(ハザードマップ・被害想定の表示等)、リアルタイム情報(大津波警報)等の提供、被災記録の伝承、③防災無線・サイレンなどの情報提供手段の整備、④最後の手段としての津波避難ビル・津波避難タワー

#### 4. 緊急対応、復旧・復興を見据えたオペレーション計画とそれを支える施設整備

- ①くしの歯に相当する道路啓開計画の事前準備、②津波浸水排水計画等の事前準備、③防災拠点(庁舎、ヘリポート等)、災害対策用機械などの整備・充実

#### 5. 災害につよい地域づくり、まちづくり

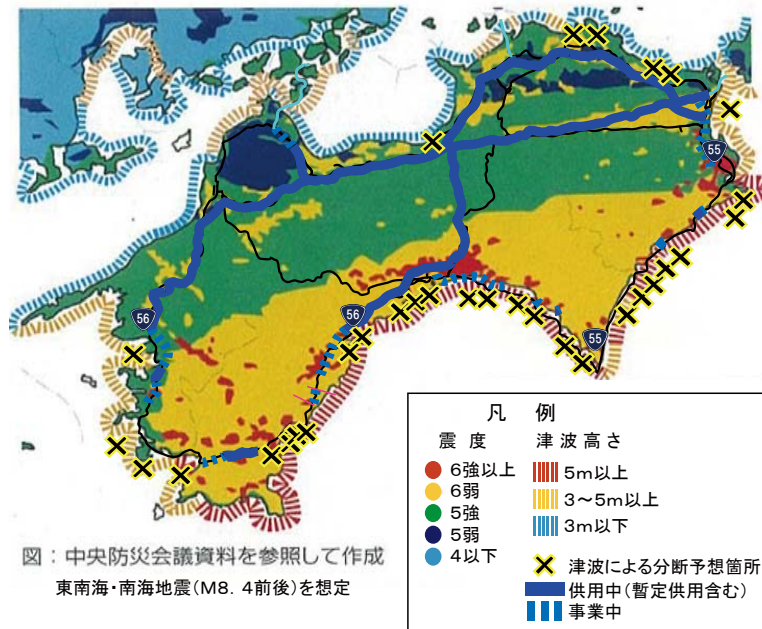
- ①津波被災想定エリアから安全なエリアへの定住の誘導、②老朽密集市街地・老朽公営住宅の解消、③確実に逃げられる、被害を最小化できる地域づくり・まちづくり

# ◎東南海・南海地震発災時の緊急輸送路確保の考え方

- ①四国8の字ネットワーク ミッシングリンクの早期解消
- ②高知自動車道の信頼性の向上
- ③瀬戸内側から太平洋側へのアクセスの信頼性の向上  
(R32、33、195、194、197、381、これらを補完するR193、439、440、441等)

## ○緊急輸送路確保の進め方

- STEP1 比較的被害が少ない瀬戸内側の横軸ラインを確保
- STEP2 横軸ラインから太平洋沿岸地域へ乗り込むための縦軸ラインの確保
- STEP3 縦軸ラインから太平洋沿岸地域のR55～R56の沿岸ラインを確保



図：中央防災会議資料を参照して作成  
東南海・南海地震(M8.4前後)を想定

東南海・南海地震の震度分布と津波による被災地図



## ◎津波被災想定エリア内の構造物の信頼性向上

- ①重要施設の配置の見直し
- ②河川・海岸堤防、橋梁、港湾・空港施設、建築物等構造物のあり方の見直し  
(液状化対策、落橋防止、超過外力対策など)

○重要施設が被災しない工夫(病院の例)



○壊滅的被害を生じない工夫が必要



# ◎確実な避難を達成するための総合対策の推進

- ①安全な避難場所・避難路の確保
- ②事前情報・リアルタイム情報等の提供、被災記録の伝承  
(ハザードマップ・被害想定を表示等)
- ③防災無線・サイレンなどの情報提供手段の整備
- ④最後の手段としての津波避難ビル・津波避難タワー

○身近な命の道の確保



○各種情報の提供



○被災記録の伝承

